

**「新しい東北」官民連携推進協議会
令和6年度 岩手県意見交換会（第3回）議事概要**

令和7年1月22日
「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

【日 時】 令和7年1月22日（水）13:00～15:00
【場 所】 マリオス18階会議室／オンライン（Teams）
【出席者】 （順不同・敬称略）

＜副代表団体＞

岩手県／岩手銀行／特定非営利活動法人 いわて連携復興センター

＜復興庁＞

復興庁 復興知見班／復興庁 岩手復興局

＜事務局＞

株式会社読売エージェンシー／株式会社 JTB

【議事概要】

1 開会

復興庁佐藤参事官より復興に関わる業務を含めた経歴紹介と挨拶がなされた。

2 各団体の令和6年度活動紹介

復興庁（資料のみ）、岩手県、岩手銀行、いわて連携復興センターより取組を紹介した。

※欠席の岩手大学は資料の配布のみ

3 令和6年度を取組ご報告、および次年度に向けて

今年度の取組について、事務局より実施報告、ならびに実践の場で高校生が実際に取材・撮影した映像の一部を、会場モニターにて放映し出席者が視聴。その後、取組内容に対する意見交換、ならびに次年度の取組の方向性についての意見交換が行われた。

- ・今年度のテーマは「沿岸と内陸部を繋ぐ」ことであり、内陸部の高校生が沿岸部を訪問し、復興の状況や沿岸部の魅力を再認識したことは、新たな気づきもあり貴重な経験だったと感じる。
招待状作成ワークショップはオンラインで行われたが、万博の100日前イベントなどで作成者が招待状のコンセプトや参加した感想を発表する機会があり、来場者からのコメントを通じて作成者が手ごたえを感じることが期待できる。今後、完成したコンテンツを効果的に発信・活用するために連携を図りたい。
 - ・参加者募集のタイミングが遅く、学校側との調整や連携を考慮すると、早めのスケジュール決定が必要だと感じる。また、本番までに高校生と構成を組む期間も短かったため、参加校からのアンケートにもあるように、もう少し準備期間に余裕があれば、高校生たちが更に主体的に参加する取組になったのだと思う。
 - ・観光事業の部分でもあったが、沿岸地区でクルーズ船の寄港が多くなっている面もあり、内陸地区とのオプションルツアーも含めた連携なども一つあるのではないかと考える。
 - ・若者カフェは盛岡市を拠点に、沿岸部の久慈市（NANAMARUNI COFFEE）、宮古市（みやっこベース）、陸前高田市（コワーキングスペース ヤドカリ）と連携しており、今後も拠点間での関わりを深めることで、より良い繋がりが期待できると思う。
- 2月22日に開催される TOHOKU MOMENT の際、東京都千代田区大手町で「岩手わかすフェス」が開催され

る。岩手県に関心がある人が集まるこのイベントによる相乗効果を期待し、情報提供などの形で TOHOKU MOMENT と連携していきたいと考える。

- ・令和7年度の取り組みについては、復興庁において有識者による復興施策の総括ワーキンググループが行われており、その報告の中で、「新しい東北」の事業のうち、新ハンズオン支援事業及び「結の場」事業の取組以外は、令和7年度末の完了に向けて、これまでに蓄積したノウハウの普及・展開等を実施するとされている。

実施体制については、復興庁が事務局となり、関係機関が副代表団体となる現在の体制は大きく変えずに現在の体制を維持し、会議の方法については、予算や人員体制の制約を考慮しながら検討するべきである。

- ・この協議会には初回から参加しているが、もともとは交流人口や関係人口を増やす目的から始まり、沿岸部の人々や事業者との交流から、令和元年度の「担い手支援」が実施された。震災前は、アクセスが悪くても内陸部から沿岸部へ訪れていたが、震災後は心理的な距離が広がったと感じている。日本全体の物価上昇や経済状況の悪化などの要因もあるが、内陸部と沿岸部の交流における隔たりが大きいと感じており、来年度は交流人口の増加や内陸部と沿岸部の関係性構築を大きなテーマとした取り組みを実施したいと考えている。
- ・若者同士の交流なども有効的と考えており、内陸部と沿岸部の高校生がそれぞれ探究学習や地域課題の共有や解決に向けた取組を行うという形の交流も良いと思う。

4 閉会

令和6年度の取り組みは、「沿岸と内陸部を繋ぐ」をテーマとし、映像取材や招待状の作成を通して、内陸部の高校生や大学生が沿岸部の復興の状況や地域の魅力に新たな気づきを得られた貴重な経験となった、という意見をいただき、内陸部と沿岸部のつながりを深める上で大きな成果を上げた。しかし、課題も残っており、次年度以降は、これらの課題解決に向けて、より一層の取り組みが必要であるとの議論がなされた。特に、復興ノウハウの全国展開、若者同士の交流、内陸部と沿岸部の関係性構築などが重要なテーマとなる。